



# 神養方藥

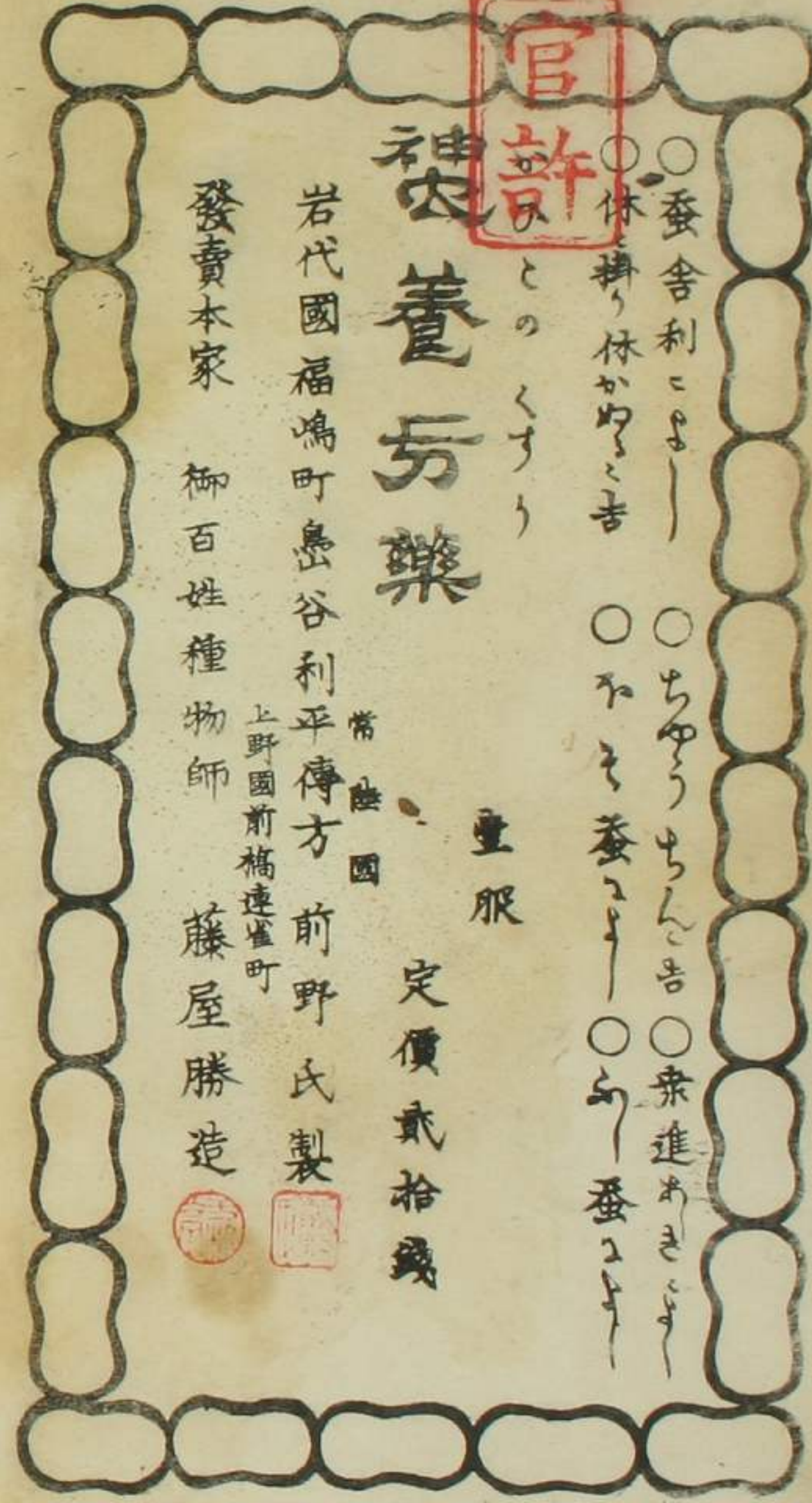
定價貳拾錢

岩代國福嶋町島谷利平傳方 前野氏製

發賣本家 柳百姓種物師 藤屋勝造

○蚕舍利こまー ○ちやうちんき ○桑進あきまー  
 ○休耕り休かゆき ○不そ蚕こまー ○ふ蚕こまー

重服



夫養蚕ハ國益の一助ニシテ、遍世人の所知ナリ。當今養蚕セざる國ナ  
 と雖、近年蚕種々々以、弊附蚕舍利ト患フ者多シ。然ラニ此御藥を  
 之レ立シメテ、度々桑ノ葉ニ掛養ハシ、弊附事ナク、蚕舍利之患ナ  
 蚕乃元氣以増シ、桑此進シ、成當蚕ト成良請合也。

一此御藥の儀ハ岩代國福嶋町島谷利平累年試用、御藥トシテ有故  
 御傳弘め來ル處々々、外國迄も弘シ、程乃名方トシテ、今般内務  
 省々々御検査の處、効驗灼乎、悉ク誠實の藥品トシ、紛ナク明治  
 十二年ト至テ、御官許を蒙リ、遍ク天下ニ弘メ、若クハ此度板木改正  
 附一服毎、印紙張用仕の間に、紙無之、價廉、御座ハ附御改の上  
 御求被下度、然ラニ世間ニ、蘇酒ハ浸シ、其酒を以テ蚕を養  
 之、無實の藥物も有之、酒ハ一度氣ハ發シ、以テ蚕下カビ、其而巳  
 家の中此節、繭ハカビ付、絲の艶を揚ぐる様の非、蘇酒類ハ、カビ  
 家の傳藥ハ水トテ、煎シ、其水を以テ蚕を養ハ、御藥トシ、其元氣を  
 増來進シ、當リ蚕成シ、其質精美、繭を造リ、絲の艶を出シ、立  
 至幸福疑ナク、其効能神の如シ。

○毎年蚕舍利成家、此御藥ハ、桑の分量倍増シ、用リ、  
 ○蚕ハ何樹の弊附、蚕舍利、相見、此節此御藥ハ、分量通り用リ、  
 ち等患ナク。

分量 藥水服シ、蚕種紙を故ニ用リ、夏蚕ハ倍増シ、藥用リ、  
 用方 藥水服シ、水ニ升ハ、壺升六合ニ煎シ、桑葉掛養ハ、  
 但志ヤ氣ハ忌ム。

蚕種紙立シ、桑葉ハ、林邊ハ、桑十ニ分、十度ニ用リ、桑十ニ分、竹林邊ハ、五ニ分、竹林邊ハ、  
 五分、林邊ハ、三ニ分、桑葉ハ、林邊ハ、二ニ分、桑葉ハ、林邊ハ、二ニ分、桑葉ハ、林邊ハ、二ニ分、  
 尤分用、共茶を服シ、蚕種紙を故ニ用リ、用リ、其度毎、煎シ、用リ、煎シ、用リ、煎シ、用リ、

官許 産婦湯本舖 賣藥店 藤生勝造製

